

こみゆにていー戸隠

発行者：戸隠地区住民自治協議会長 羽場 謙一 【令和 6年 2月 20日発行】

〒381-4102 長野市戸隠豊岡 1554 tel.(026)254-2490 fax.(026)254-2327

人権・福祉大会

新型コロナウイルスの感染拡大などにより四年ぶりとなる「戸隠地区人権・福祉大会」が十一月十二日に戸隠農村環境改善センターで開催されました。大会では人権福祉と健康体操の講演会が行なわれ、このうち人権福祉講演会では「人生いろいろ：人の数だけ性はある」と題し保健師の中村智子さんが性の多様性について講演されました。



中村講師による人権福祉講演会

講演では、誰もが無意識に思い込みがちな「性の決めつけ」に気づきを与えていただくとともに、内面までは分かりにくい性について、わかりやすく話していただきました。受講者からは「日常生活において、これまであまり意識していなかった性の多様性について理解ができた」「自分が勝手に相手の性を決めつけないようにしたい」など、性に対する意識を見直すきっかけになったようです。



林部講師のボールを使った健康体操

健康体操の講演では、健康運動指導士の林部美代子さんが「健やかな毎日」と題し、歳を重ねても自分の足でしっかりと歩けるための「フレイル予防体操」を指導してくださいました。ゴムボールを使って体を動かしたり、腕を上げたりと、わかりやすいストレッチを体験しました。参加者は毎日の運動の大切さを再認識できたとし、「わかりやすい動作で覚えやすかった。家に帰ったら実践してみたい」と話していました。

作品を展示

会場には「豊岡荘やデイサービスセンターなど福祉施設の利用者」「かがやき広場が開催する講座の受講者」「高齢者集いの場の参加者」など、多くの皆さんの作品が展示され、訪れた人たちは足を止めて、見事な出来ばえに感心していました。また、「地域たすけあい事業」で利用者を病院等へ送迎する「とがくし号」も展示されました。「地域たすけあい事業」の利用を希望される方は、住民自治協議会へご相談下さい。

高千穂町の児童が来訪

スキーや竹細工で交流

戸隠地区と姉妹町の宮崎県高千穂町の小学六年生五名と、戸敷（とじき）教育長はじめ引率者三名が、十二月二十三日から二十六日（三泊四日）の日程で戸隠を訪れました。訪問中は中社の宿泊施設に滞在し、スキーや竹細工などで戸隠の子どもたちと交流を深めました。



歓迎会では互いの地域を紹介しました

互いの地域を紹介

長野駅に着いた一行は、最初に戸隠地質化石博物館を訪れ、戸隠の地質や文化、高千穂とのつながりなどを学芸員の案内で見学しました。

続いて臨んだ歓迎会では子どもたちが、それぞれの地域の良いところを紹介しました。戸隠からは竹細工や神社、そば、スキー場などを、高千穂からは天岩戸（あまのいわと）神社や神楽、高千穂峡、高千穂牛などが紹介されました。また、高千穂から神楽の後継者不足という話があり、戸隠でも少子化によって巫女（みこ）のなり手が少なくなっている等、共通の話題も取り上げられました。

その後、高千穂から投げられた岩戸が戸隠山になったとする「天岩戸神話」の朗読を聞き、両地域を結ぶきっかけを学んだり、お互いの学校の様子や地域の状況などについて情報交換をしました。



一緒にスキーを滑り交流しました

スキーで交流

二日目はスキー体験をしました。高千穂の児童は皆、スキーが初めてで、最初は苦戦していました。徐々に慣れてきて、途中から合流した戸隠の子どもたちとスキーを楽しみ、お昼と一緒に食べました。また、スキー場主催のビンゴゲームに参加したり、雪合戦などをして交流しました。

その後の竹細工教室では戸隠の児童生徒七名も参加して講師の指導を受けながら一緒に「箸置き」を作りました。

全校で見送り

三日目は戸隠の児童生徒が登校日のため、高千穂の児童だけでスキーをしました。この日はスキーにも慣れてきて、予定の時間ぎりぎりまで思う存分、楽しみました。また、戸隠神社中社を参拝し宮司の講話を聴きました。

最終日の二十六日は、戸隠小学校で全校児童が見送りました。高千穂の児童代表は「戸隠の皆さんと交流できたことは、とても良い思い出になりました。楽しい四日間でした」とあいさつし、今回の訪問を振り返りました。



見送りの会

青少年健全育成推進大会



津軽三味線の演奏を交えて講演していただきました

熱中するもの

突き詰めて

毎年、戸隠の児童生徒や保護者、地域住民に、様々な分野で活躍している方の講演会を開催する、戸隠地区青少年健全育成推進大会が十一月十四日に戸隠中学校で開催されました。

今年も津軽三味線奏者で大学生の中村澁己（なかむら こうき）さんが「好

きな事を突き詰める過程で味わうもの」と題し、津軽三味線の演奏を交えながら講演をされました。中村さんは幼少期から津軽三味線奏者、津軽民謡歌手として活躍し、数々のコンクールで優勝を果たし、全国各地でコンサートを開いたりYouTubeなどのSNSでも積極的に活動しています。

講演では、自身の津軽三味線への向き合い方を紹介し、「熱中するものを突き詰めると、自分が工夫することで、いろいろな体験や様々な人との出会いがあった」と述べ、「人と比べるのではなく、自分が熱中するものを持ち、それを伸ばそうと突き詰めていく過程には、素晴らしい景色がある」と児童生徒に語りかけました。



講師の中村澁己さん

また、学業と演奏を両立していることについて、「忙しく大変なことだが、そうすることで自分に『効率』が身に着く」と述べ、何事も前向きに取り組む姿勢が大事だと話しました。

中村さんを知る中学生も多く、講演会終了後はサインや握手を求めたり、「将来は、津軽三味線奏者をめざします」と話す生徒もいました。

やまざと支援 交付金事業

支障木を伐採

「やまざと支援交付金事業」では、道路や区が管理する土地などで支障となっている樹木について、区の要望に基づき伐採しています。今年度は八月上旬から中旬にかけて戸隠地区区内十箇所を実施しました。



道路沿いの支障木を伐採しました

課題解決に助成

このほか、各区の課題解決を対象とする事業へ一区につき二万円を上限として助成金を交付しています。今年度は、野ネズミ駆除剤や除草剤、草刈り機の替え刃などの購入費用等が全十五区から要望され、総額二十七万六千円余りの助成金を交付しました。

雪おろし 安全対策塾

地域振興委員会では今年で三回目となる「雪おろし安全対策塾」を十一月二十六日に戸隠農村環境改善センターで開催しました。

講師は昨年に引き続き、長岡技術科学大学の山村靖司（かみむらせいじ）教授にお願いし、雪おろしに関する最新の安全対策を指導していただきました。最初に講義



ロープの結び方を学びました

を行い、雪に関する人的な被害の多くは屋根の雪おろし中における転落事故であるとの話がありました。そのうえで、命綱（安全帯、ロープ、アンカー）の三点がセット）の適正な使用方法、はしごから屋根への安全な乗り移り方などについて説明がありました。

続く実技では三人一組となり、実際に命綱の装着を体験しました。ロープの結び方や安全帯の装着、アンカーへのロープの取り付け方などを実際に講師がやった後に、組毎で確認しながら修得していきました。

参加した二十七名のほとんどが初めての受講とあって、安全な屋根の雪おろしを行うため、講師に質問しながら、熱心に取り組んでいました。

屋根の雪おろし作業は危険を伴うため、適正な装備と方法により、必ず複数人で行いましょう。



そば部が指導・・・吉田高校戸隠分校調理室

高校生が指導 「そば打ち」に挑戦

健康福祉委員会では二月十日、男性活躍応援事業を開催しました。今回は「そば打ち体験」を実施し、参加した六名が吉田高校戸隠分校そば部の部員八名から指導を受け、そば打ちに挑戦しました。

最初に顧問の丸山先生から、そば部の活動内容や全国大会出場の様子などが紹介されました。続いて三年生の部員が「そば打ち」を

実演し、丸山先生が「こねる」「のす」「切る」の要点を解説しました。参加者には指導する部員一〜二名が付いて、そば打ち体験が始まりました。部員は手順の随所でコツを説明し、場合によっては一緒に作業をするなど、懇切ていねいに指導していました。

会場は終始なごやか

「孫世代」の部員との交流とあって会場内には笑い声が響き、終始なごやかな雰囲気にも包まれていました。

参加者は「そば部を一度見たくて参加した。基本をしつかり教えてもらい感謝する」

「若い人に褒められながら教えてもらった」「このような機会をまた企画してほしい」などと話し、楽しい「そば打ち」になったようです。

部員の代表は「そば打ちに意欲的な方ばかりで、教えている私たちも楽しかった。また、一緒に打ちましょう」と話していました。